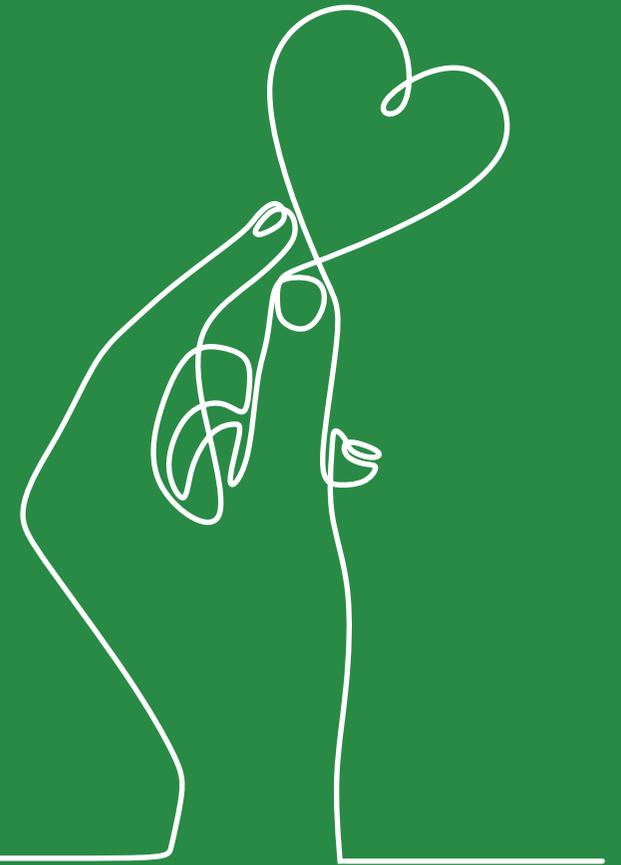


KAMAKURA / Manifest 2025

鎌倉
マニフェスト
2025

子どもから高齢者まで安心して暮らせる
共生社会のまちを実現する



鎌倉市は、平成 31年(2019年)3月『市民一人ひとりが、お互いを尊重し合い、支え合い、多様性を認め、自らが望む形で社会との関わりを持ち、生涯にわたって安心して自分らしく暮らすことのできる社会を実現すること』を目指し、「鎌倉市共生社会の実現を目指す条例」を制定しました。

新型コロナウイルスの感染が市内で発生し始めた頃、市内でも恐怖や不安から感染者やその家族、医療従事者等に対する差別や偏見が見受けられました『共生社会』の重要性は理解していても「いざ」となると相手の立場や思いやる心を見失ってしまうことがあると改めて感じました。

市では「STOPコロナ差別」と題したポスターを作成して市内各所に掲示するなどの対応により、相手の立場や思いやる心の大切さ、「共生社会」の重要性を発信しました。

引続き、市役所をはじめとして、市民、NPO、事業者など、鎌倉に関わる全ての方々と共に、多様性を尊重し、どのような立場になろうとも、自分らしくいられる共生社会の実現に向けて、取り組みます。



共生社会の実現を目指す条例

(平成31年3月25日 第32号)

(目的)

第1条 この条例は、市、市民及び事業者が協力しながら、市民一人一人が、お互いを尊重し合い、支え合い、多様性を認め、自らが望む形で社会との関わりを持ち、生涯にわたって安心して自分らしく暮らすことのできる社会を実現することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 共生社会 市民一人一人が、お互いを尊重し合い、支え合い、多様性を認め、自らが望む形で社会との関わりを持ち、生涯にわたって安心して自分らしく暮らすことのできる社会をいう。
- (2) 市民 市内に居住し、通勤し、又は通学する者をいう。
- (3) 事業者 市内で事業活動を行うものをいう。
- (4) 合理的配慮 共生社会の実現に当たって、市民が日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のもののうち、市民が現に解消を必要とする障壁を解消するための必要かつ適当な措置であって、当該措置に伴う負担が過重でないものをいう。

(基本理念)

第3条 共生社会の実現に向けた取組の推進は、市、市民及び事業者が、それぞれの責務又は役割を果たし、相互に協力しながら、次に掲げる理念（以下「基本理念」という。）に基づき、行うこととする。

- (1) 市民が、その個性や多様性を尊重され、自分らしくいられること。
- (2) 市民が、お互いを支え合い、助け合うことで、安心して生活できること。
- (3) 市民が、社会の一員として、自らが望む形で、あらゆる分野における活動に参画する機会を確保されること。



<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/chikyo/jourei.html>

「すべて国民は、個人として尊重される。」からはじまる日本国憲法第13条は、個人の尊厳及び幸福追求権について規定しています。

私たちの年齢、性別、性的指向や性自認、障害及び病気の有無、家族のかたち、職業、経済状況、国籍、文化的背景などは、それぞれ異なります。

多様な人々が尊重され、どのような立場になろうとも、自分らしくいられる社会が、私たちの目指す共生社会です。

近くにいる人の生きにくさに思いをめぐらせてみましょう。自分らしく生活したくとも、多くの人にとっての「ふつう」や「当たり前」を前提とした社会に、生きにくさや居心地の悪さを感じる人がいます。

「ふつう」や「当たり前」の意味は、人によって違うからです。

互いの違いを思いやり、配慮することで、人はみな、共に生きられます。

目に見える事物はもとより、目に見えない、あるいは言葉にできない生きにくさに気づくことが、共生社会への一歩となります。

私たちは、多様性を認め、互いを思い、自分らしく安心して暮らせる社会を、鎌倉市において実現するために、この条例を制定します。

鎌倉市共生社会の実現を目指す条例(前文)

今日から、みんなです!

自分らしく、生きる。共に、生きる。

これまでのとりくみ

コロナ対応

さて、昨年以来、新型コロナウイルス（COVID-19）が猛威を振るい、政府の緊急事態宣言やまん延防止措置を受けて、感染対策と共に人流抑制施策を進めています。それにより商工業・飲食業は大きな打撃を受けています。こうした事態への対応として、国や県に先駆けて売上が減少した事業者への家賃補助、クラウドファンディングによる飲食店応援、さらには、市民が地元のお店との繋がりを深め（縁結び）、市民に地域を応援してもらおうという想いで進めた「縁むすびカード」事業の実施など、事業者支援策を積極的に行ってきました。

ワクチン接種

いち早く、希望する市民の2回接種が完了するよう、医師会をはじめ関係者の方々のご協力を得て、ワクチン接種を進めてきました。また、希望する方、全員がワクチン接種できるよう、高齢者や障害者の等へのタクシー券の配布を行いました。これらの取り組みにより、鎌倉市は9月27日時点で全世代の1回目接種率が72.83%と、県内の市で一番早いペースで接種が進んでいます。今後も変異型のコロナウイルスやコロナ以外の感染症の流行にも警戒を怠らずに、総合的な感染対策をより一層推進しつつ、市民一人ひとりの免疫力強化に向けた健康増進政策や未病対策について推進します。

with コロナの経済対策

鎌倉市では2018年（平成30年）からテレワークライフスタイル研究会を立ち上げ、市内でのテレワークの推進に取り組んできました。このため、コロナ禍におけるテレワークの加速により、様々なコワーキングスペースが誕生するなど市内のテレワーク環境の整備が進みました。鎌倉市内の活力の低下につながり得る、働く世代の人口流出を防ぐためにも、鎌倉に住みながら働くことができるテレワークやシェアオフィスなどの環境整備を、より一層、官民で推進します。それと共に、起業家・スタートアップの支援や鎌倉での

商工業や保育、健康・スポーツ、介護サービス業の展開を支援することにより、新たな雇用を創出していくことにも取り組めます。

働き方改革

若年層から高齢者までの幅広い世代や、社会との関わりの中で何らかの障害に直面している方を含めて、鎌倉で働き続けることができるまちづくりが、共生社会の大前提です。そのためには、真の働き方改革を実現することが必要です。そして、真の働き方改革を実現するためには、「通勤時間を減らし鎌倉で働くワークスタイル」、「豊かな環境の中で子育てができ、好きな時に鎌倉で働くことができるライフスタイル」を選択できる必要があります。それらの実現に向けて官民連携で「鎌倉テレワークライフスタイル研究会」を立ち上げて、取り組んでいます。

そして誰もが幸せに暮らせる、ウェルビーイングなまちへ

環境と交通問題（インフラ課題）に負荷をかけない形で、緩やかに移住者を受け入れ、社会増を目指す取り組みを推進すると共に、子どもを産み育てやすい環境、若者が学び働くことができる場、社会との関わりの中で何らかの障害に直面している方が安心して過ごせる環境、そして、高齢者がいくつになっても元気に過ごすことができる環境など、誰もが住みやすく、安全安心な、個性豊かな魅力的で幸福感に満ちたまちを、市民の皆様と共に実現します。

災害対応

一方で災害対応も重要課題です。2019年（令和元年）9月、超大型台風襲来の際には、市内でも大きな被害が生じました。今後、地球温暖化の影響を受け、こうした超大型台風や豪雨などが多発する可能性を踏まえて、市民の安全を確保していくことが重要です。

鎌倉市では市有地の安全対策はもちろんのこと、民有地の崖の安全対策、緑地の管理などの補助金を大幅に増額し、

市民の生命・財産を守る取組みを最優先に取り組んでいます。さらに今後、いつ起きても不思議ではない東海地震、南海トラフ地震等に向けた防災・減災の準備・取組を進めるだけでなく、発災後においても、緊急対策、復興政策などの対応が確実に実行できるよう、業務継続計画の質を上げていきます。常に想定外の災害があることを予想し、発災後の緊急対策・復興対策をしっかりと考え、市民の生命・財産を守ります。

テクノロジーの活用

情報通信革命（IoT、ビッグデータ、AI、ロボット、自動運転車、ブロックチェーン等）や、ライフサイエンス革命（再生細胞医療や遺伝子解析や編集、ナノテクノロジーの医療機器等）により、第4次産業革命を積極的に取り入れることで、持続可能なまちづくりを進めていきます。

共生社会×テクノロジー

イノベーション・テクノロジー（最先端の技術）を手段として用いますが、利用する人に合わせて、デジタルサービス、人を介したサービスを選び分けて提供していきます。重要なことは「共生社会の実現」です。鎌倉の伝統を守りつつ、市民にとって温かい気持ちで受け入れられるイノベーション・テクノロジーの浸透を実現します。また過剰な利便性や快適性の追求の先に、真の市民にとっての幸せがあるのかといえば、疑問に思います。それは例えば、全ての方がロボットスーツを着るようになれば、確かに「坂道を歩く」、「重たいモノを持つ」といったことは楽に感じるようになるかもしれませんが、「筋力の低下」、「健康状態の悪化」といった思わぬ結果を招くことになるかも知れません。何でも自動化することを受け入れると、考える必要がなくなってしまう、脳活動を退化させてしまうかも知れません。こうしたことに配慮しながら、市民にとって、本当に必要なテクノロジーを選択します。

SDGs

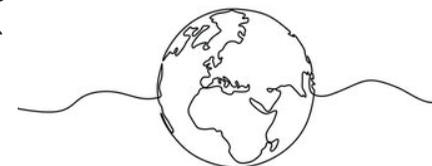
世界は2030年に向けて、持続可能な社会の構築を目標としたSDGsを掲げました。鎌倉市も政府から『SDGs未来都市』に認定され、プラごみゼロ宣言や気候非常事態宣言を表明し、2050年までに温室効果ガス排出の「実質ゼロ」に取り組んでいます。まずはその足掛かりとして、2021年（令和3年）2月に市役所や小中学校など57の施設で使用する電気を再生可能エネルギー100%の電気に切り替えました。

SDGsは、地球規模の課題を解決するための世界共通の目標です。その背景には、世界的な人口増加、それに伴う開発が進む中で生じる環境破壊、紛争や飢餓といった世界の諸問題があり、人口減少が進む我が国には、関りが薄いと思われてしまうかもしれません。しかし、気候変動や児童労働などこれらの問題の多くは、日本をはじめとする先進国の経済活動などが引き金となって発生していると言われています。そして、鎌倉のまちを次世代に引き継ぐために必要な問題も多く含まれています。

「自分たちだけが良ければよい」ということではなく、私たちの行動が、世界に繋がっていることを常に意識し、鎌倉から持続可能な世界をつくるための取り組みを、共に進めましょう！

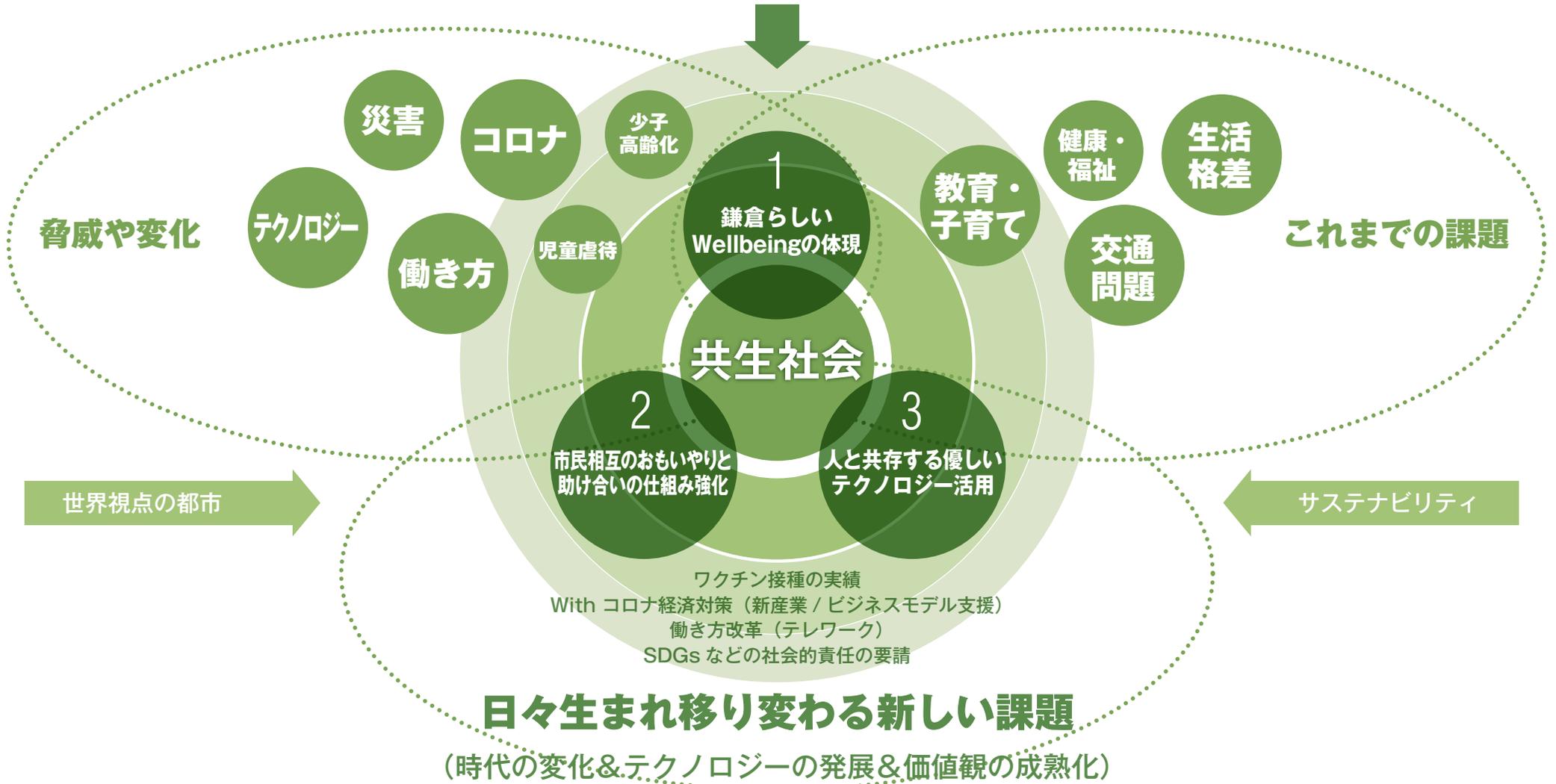
交通

長年の課題である交通渋滞問題は、ロードプライシングの実現に向けて取り組み、「歩くのが楽しいまちづくり」を目指します。また高齢者の皆様に向けた取組として、運転免許を返却した方が快適に市内を移動することを支援する公共交通の実現を、オンデマンド交通サービスなどの「人に優しいテクノロジー」の活用を通じて進めます。



鎌倉市共生社会の実現を目指す条例

市民ひとりひとりの可能性と共創する人財を最大化



【まとめ】

長寿の時代となり、全ての世代が多様性を受け入れ、心豊かに過ごすことができるライフスタイルへと変革していくことを目指します。これまでのように、同じような人生コースではなく、何歳になっても学び、働き、成長し、助け合い、結ばれ、共に笑い合う、多様性のある地域社会をつくるのが肝要です。

私は、共生社会の実現に向けて、なお一層の、市民参加型のまちづくりを皆様と対話しながら進めていきます。世界に誇る新しい鎌倉のライフスタイルをつくるためには、産官学民の共創が不可欠です。そして、今後の地域行政においては、公助のみならず、自助・共助・互助の精神を市民と共に育むことが、持続可能な地域社会の実現を可能にするものであると確信しています。

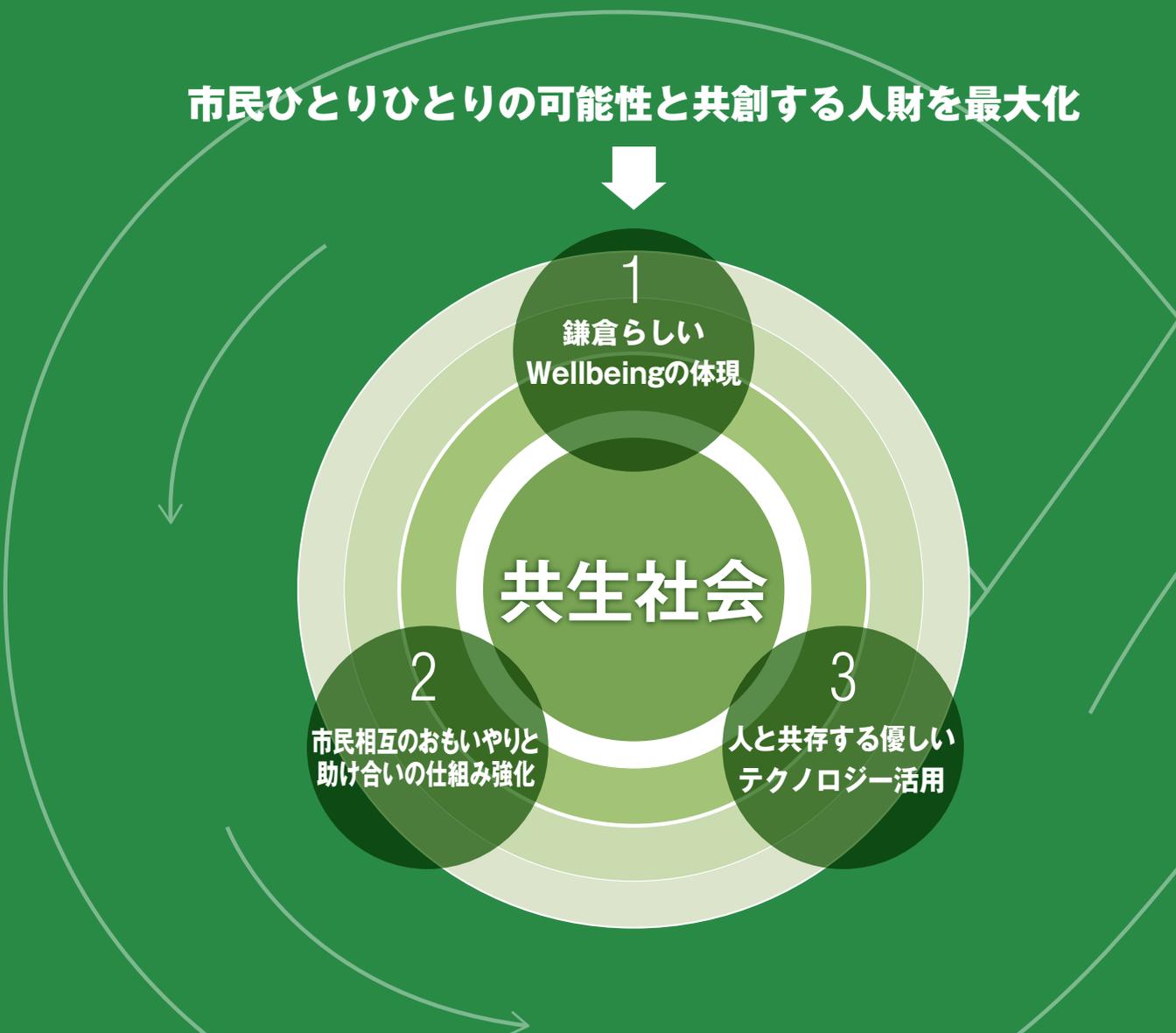
次の4年間は、『子どもから高齢者まで安心して暮らせる共生社会のまちを実現する《鎌倉の未来ビジョン2025》』を掲げ、解決に至っていない課題を解決し、10年、20年、30年先も見据えながら、未来に向けた礎を築きたいと考えています。

そして政策実現のためには何よりも、想いを共有し、共に行動する人財が重要です。鎌倉を愛する熱い想いを持つ素晴らしい人財と共創し、また人財を育て・集めて、掲げた政策を実現します。

皆様のご理解ご協力を何卒よろしくお願いいたします。

令和3年(2021年) 松尾崇

市民ひとりひとりの可能性と共創する人財を最大化



鎌倉市 未来ビジョン 2025

目次

- P9 【市民の「命」を守る取り組み】
- P10 【こども・子育て・教育】
- P11 【健康・福祉】
- P14 【環境】
- P15 【平和・文化・芸術・歴史】
- P16 【はたらくまち鎌倉の実現】
- P17 【まちづくり】
- P17 【行財政改革・テクノロジー】



鎌倉市 未来ビジョン

2025

子どもから高齢者まで安心して暮らせる
共生社会のまちを実現する

ビジョン

鎌倉市を世界に誇れる持続可能なまちにする

ミッション

共生社会を共創する

バリュー

多様性を尊重し、複雑な社会を理解する努力を
継続し、鎌倉を愛する先人達が守ってきた歴史、
文化、自然、共生の価値観を大事にする

市民の「命」を守る取り組み

- ◎ 新型コロナウイルス及び他のウイルスからの感染症対策として、国・県とも連携を図り、予防政策や事業者支援、ワクチン接種などを実施します。
- ◎ 心身の免疫力強化に向けた取り組みを強化します
- ◎ 既成宅地防災工事資金助成事業と民有緑地維持管理助成事業、そして市有緑地の維持管理事業の予算を十分に確保し、防災・減災につながる取り組みを進め、市民の安全安心を守ります
- ◎ 風水害対策、交通問題、高齢者への配慮などを考えて、道路・トンネル・橋梁、下水道管などの市インフラの整備を計画的に進め、市民の生活基盤をしっかり守ります
- ◎ 消防団の車両、資機材、器具置場等の整備を引き続き行うとともに、消防団員の安全対策のため、装備の充実を図り、消防団の防災体制を強化します
- ◎ 「(仮称)鎌倉防災リーダー」への希望者を募り、さらに防災士を目指す方への補助を創設します
- ◎ 大震災対策、津波対策として、避難経路と避難場所の更なる整備と活動、有事に向けて市民・地域と連携して実施する訓練活動を強化します
- ◎ データ連携や気象情報等のAI分析・活用を行うICTサービス事業者等と連携し、災害時の市役所による効果的な対応と市民一人ひとりの「命を守る行動」を実現する情報提供等を実現します
- ◎ 災害時にペットと一緒に避難できる「ペット避難所」を設置します。また、ペット共生社会として、ドッグフレンドリー、ペットフレンドリーの市役所にするると共に、協力店舗を増やすために啓発します。
- ◎ 有事や課題発生の際に、他県や近隣市から支援(ボランティアや寄付)が集まるよう、事前から関係人口である鎌倉へのファンメンバー(居住していない市民)が集まるよう機運醸成に努めます。また、鎌倉に貢献する様々な専門人材が横連携する市民サポートコミュニティの創設と育成を強化します。

- ◎ 小児医療費無償化の所得制限を撤廃し、生まれてから中学校卒業まで、全ての子どもの医療費を無料にします
- ◎ 子どもの虐待死ゼロを目指します。
- ◎ 産後の家庭向けの配食サービスを開始します。(新しい生命を授かったご家庭での安定した新生児の育児を支援することを目的に、産後のお母さんが健康を保てるよう栄養バランスのとれた昼食を1食500円程度で定期的にお届けするサービス)
- ◎ 2030年の時代を担う若者の意見を市政に反映させるため「(仮称)こども・若者会議」を設置します
- ◎ 鎌倉版フォルケホイスコーレ事業(デンマーク発祥の民衆による民衆のための成人教育機関。人生のどんな場面でも自分を見つめ直すための時間をすごせる場所。自分自身にじっくり向き合う機会にもなり、『人生のための学校』などと言われています)を開始します
- ◎ すべての児童生徒の良好な教育環境づくりに向け学校整備計画を策定し、計画的に建替え・長寿命化工事を行います(まずは、モデル校の整備に着手します。)
- ◎ 発達・認知機能等に特徴を有する子ども達が自らの特性や好みを活かした、自分らしい生き方ができるよう、現状の取り組みを更に発展させ、常に子どもたちが希望を持ち、前向きに成長することを多方面から支援する取り組みを実施します。(不登校特例校の設置を視野に準備を進めます)
- ◎ テクノロジーを通じて人を幸せにすることができる人材の育成を目指し、学校における魅力的なプログラミング

教育を推進します。また、GIGAスクール構想を通じた学びの進化を着実に進めるため、学校のICTインフラの整備・管理運用を万全に支えるための取組・人財措置を行います

- ◎ 鎌倉市の将来の教育行政の在り方を高い専門性ととともに長期的に構想し、実現を強力に主導する教育行政専門職(仮称)の採用をはじめます
- ◎ 一人ひとりがどんな時代においても自分らしく活躍できるようになるため、問題発見能力・解決能力・プレゼン力などの普遍的なスキルの成長を促すと共に、ALT(Assistant Language Teacher 外国語指導助手)の増員やICTを活用した英語話者とのコミュニケーション機会の提供などの英語教育を強化します
- ◎ 留学したいこどもの希望が叶うよう、支援制度を創設します
- ◎ 学校と家庭等との連携を図りつつ、子どもたちが適切な食生活・生活習慣を身に付け、将来の生活習慣病を予防するための食育指導・健康指導を推進します。また、給食食材にできる限りオーガニック農産物や地場産品を取り入れます。そのための食材費を補助します
- ◎ 子どもや保護者がいつでも、気軽に、オンラインを含めた多様な手段でいじめについて相談ができる環境を整えるとともに、積極的に学校でのいじめを認知し、組織的な対応によって重大な事態になる前にいじめを解決に導く体制を構築します
- ◎ 教育相談コーディネーター(今は教諭が担業務をし

ながら兼務)が教育相談の仕事に専任化できるよう、後補充の非常勤講師を配置します。

- ◎ 生活に困窮している世帯の子どもの居場所づくりや学習支援を充実します
- ◎ 既存公園の遊具の更新・充実を行います。また、全ての子どもが安心して遊べるインクルーシブな公園となるような遊具の選定も行います
- ◎ 市内の主要な場所(小学校の通学路や学校周辺を中心に)に防犯カメラを設置し、犯罪の抑止に取り組みます
- ◎ 子どもたちがSDGsをジブンゴト化し、「他者との共生」や「地域の課題解決」等に自発的に取り組むことを推進するため、SDGsを題材としたPBL型(Problem-based Learning 問題解決型※)授業の実施や、関連する社会活動・ボランティア活動を体験する機会を提供します

※ PBL型授業とは、暗記型の学習法ではなく、生徒たちは答えが一つではない課題に対して、仮説をたて、自分たちで調査し、仮説が間違っていればまた新しい仮説を立てて検証していくということを繰り返します。既存の学習方法では問題を解決することが目的に設定されてきましたが、PBLでは問題解決に到達するその過程が学習であるとされています。



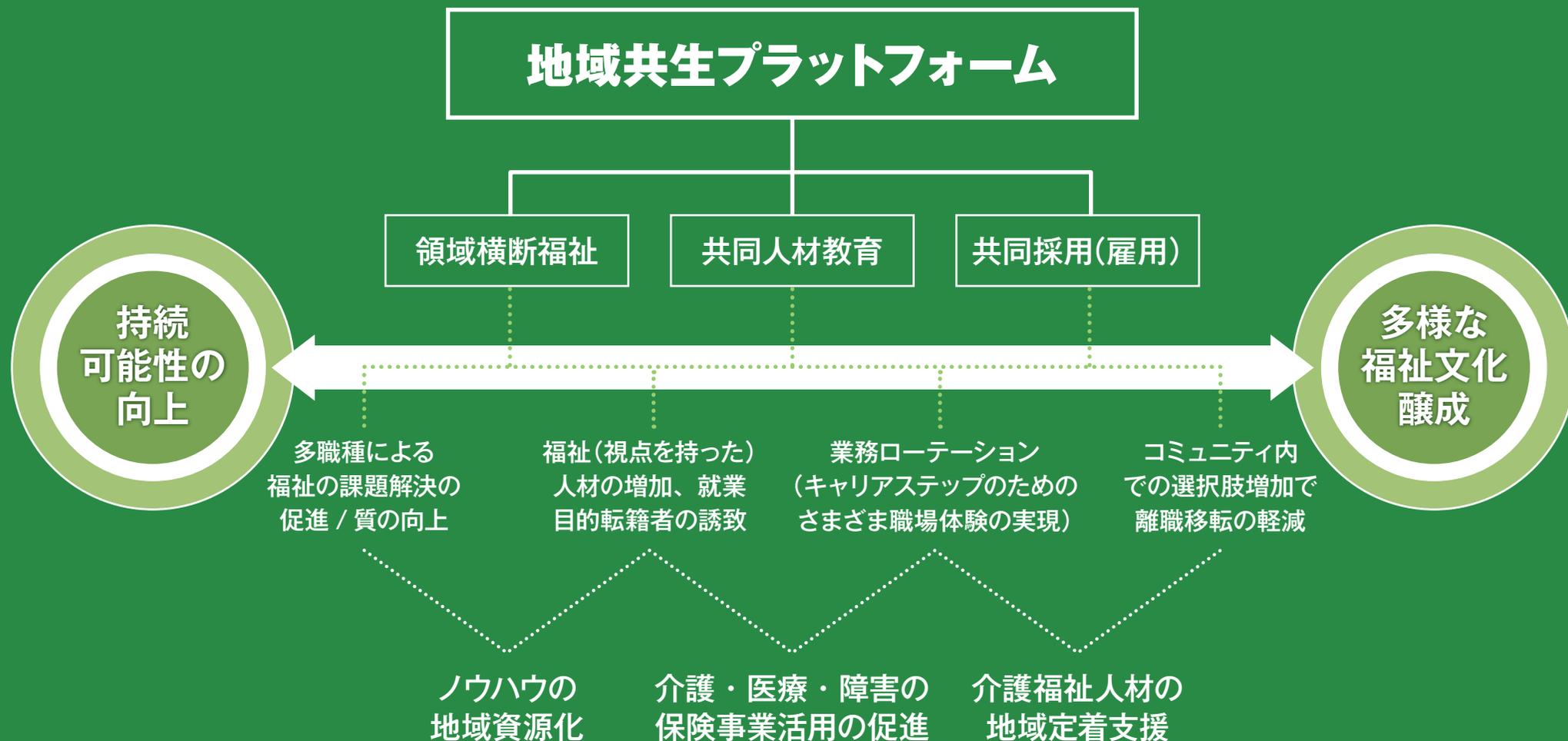
健康・福祉

- ◎ ヤングケアラーやダブルケア、老々介護や認認介護など、ケアラー支援のため、(仮称)鎌倉市ケアラー支援条例を制定し、取り組みます
- ◎ 鎌倉市民共生サポーター制度の充実を図り、子育て・家事・生活支援・介護など、生活の様々な場面を地域で支える社会を実現します
- ◎ 「鎌倉スマイルフードプロジェクト」を充実し、フードロスの撲滅、貧困に直面している子ども・家族・高齢者を支援します
- ◎ 鎌倉ならではの禅(マインドフルネス)やICT等も活用し、心の病の見える化や改善を推進します。また、民間の取り組みと連携して、『マインドフルシティ鎌倉』を目指します。また、脳神経科学の研究の集積地となるような研究機関、科学者、事業者を誘致するよう努めます。
- ◎ 糖尿病や高血圧症等の生活習慣病のデータに基づいたリスク把握を推進すると共に、その予防・改善のための食事・運動・休養等の取組を徹底します
- ◎ 歩容・歩行状況の科学的なモニタリングを含めた健康管理を統合的に行うデジタルサービスを開発・普及し、ナッジ・行動経済学的な知見も活用した健康を増進する取組や個別最適化された食事・運動・休養等の実施を支援します
- ◎ 重介護ゼロ社会を目指し、健康維持・増進や介護負担の軽減等を実現するAIサービス・介護ロボットなどのハイテク機器の導入を産官学医福連携で促進します
- ◎ 認知症予防のための啓発(食事・運動・睡眠、脳トレ)活動プログラムを導入する共に、認知症、脳疾患のリスクを計る為の脳ドックを推奨し、改善するための取り組みを推進します。
- ◎ 歯科医師会と連携しながら、障害者歯科診療を拡充すると共に、生活習慣病対策にもなる歯の未病対応(歯科検診のほか、歯周病指導、歯石除去)もさらに推進します
- ◎ 誰もが血圧検査、血液検査等のチェックを気軽に行える『未病センター』を民間との協力も含めてさらに整備し、未病の段階から生活習慣病対策に取り組むきっかけを提供します
- ◎ 健康長寿の街づくりを実現するため、子どもから高齢者までの「全ての世代が健康増進、未病改善にみずから取り組み、習慣とする」街づくりを目指します
- ◎ 高齢者の尊厳を守る取り組みとして、成年後見制度の利用促進、高齢者虐待防止、認知症高齢者対策を強化します
- ◎ エンディングプランサポート事業を実施します
- ◎ 国保データの利活用などにより、県と共にICT健康情報基盤を構築し、市民の健康づくりに役立てます。
- ◎ 健康増進のための禁煙推進に向けて、大学研究機関や医療機関と連携し、現実的な禁煙政策を推進します。
- ◎ 一人ひとりが自分らしいケアを選択できる統合的な健康サポートを提供する横断的なコミュニティづくりを支援し、地域共生プラットフォームの運営を推進します。



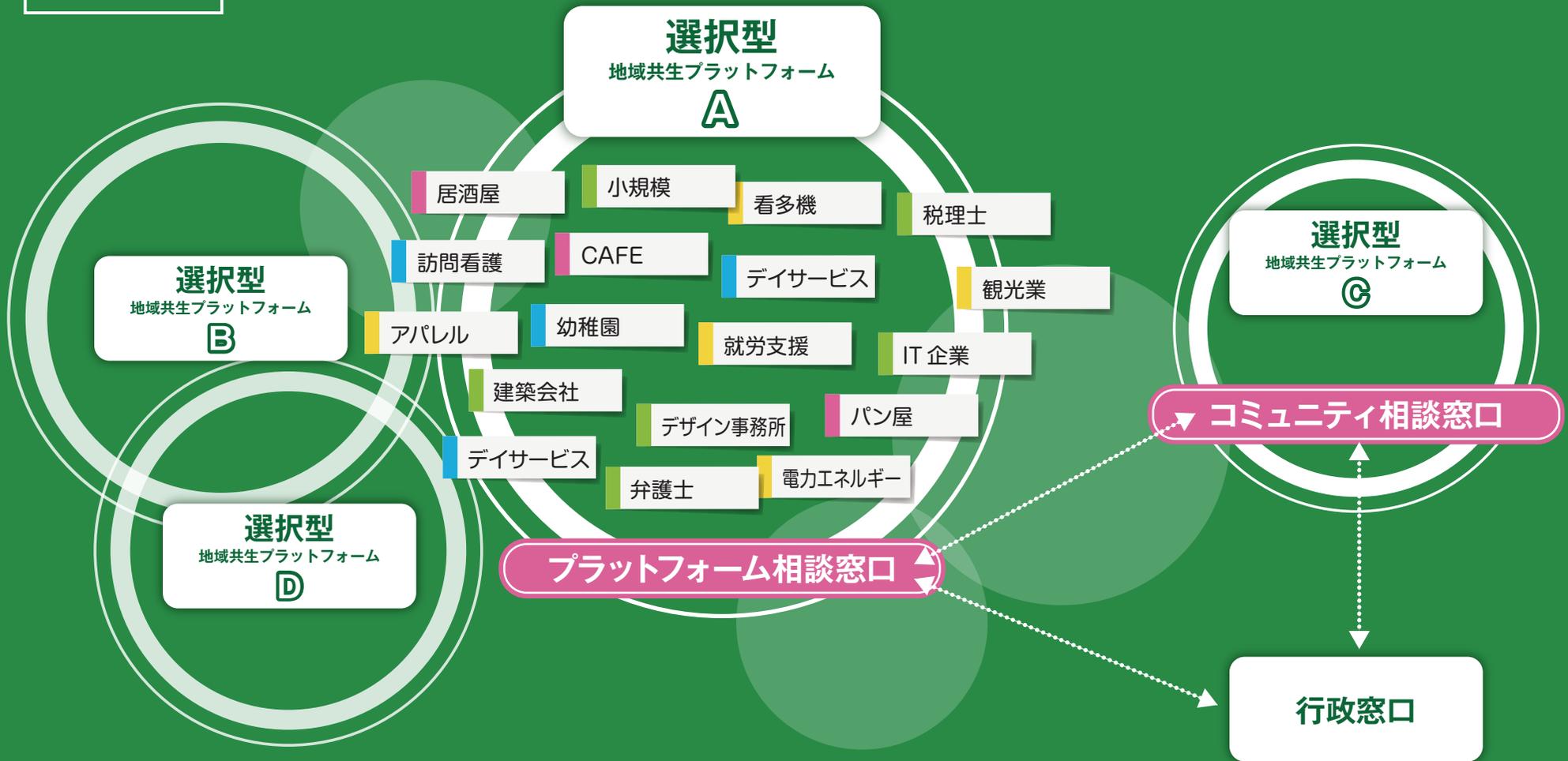
地域共生プラットフォーム(仮称)

想いを共にする福祉に関わる企業や事業所が企業の垣根を越えて役割分担・連携する共創コミュニティ運営の仕組み



活用例

福祉コミュニティを活用した鎌倉モデル

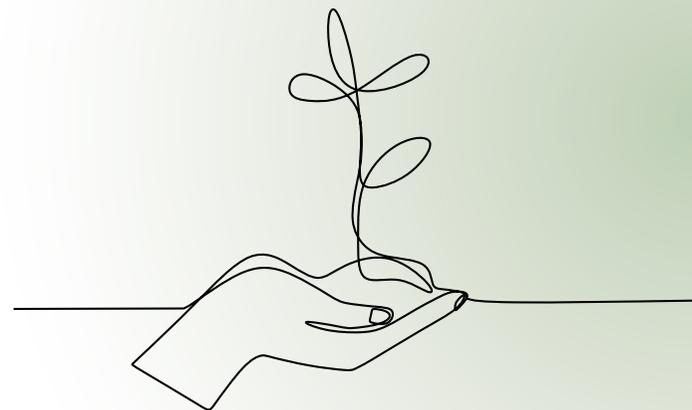


取り組みの メリット

- ① 想いを共にする事業者やご利用者さまとの連携を促進し、選択肢を広げる
- ② 福祉の地域共生プラットフォームの組成&運営ナレッジが鎌倉市に蓄積される
- ③ プラットフォームごとに窓口を一本化することで官民共に選択と橋渡しを簡略化する
- ④ プラットフォームごとに方針・出来ること出来ないことを明確に発信する
- ⑤ 教育、人事、広報、宣伝などの間接業務を一元化、福祉の社会資源と機会を増やす

環境

- ◎ 全ての公共施設へ再生可能エネルギー100%の電気を導入します
- ◎ 市役所公用車を順次、電気自動車に変更します。また、ガソリン車のパッカー車(ごみや資源物の収集車)も、順次、電気自動車を導入します
- ◎ 停電対策としても家庭用の蓄電池・電気自動車の普及を促進し、停電時の市民の電力を確保します
- ◎ 省エネルギー推進のため、住宅・店舗の断熱材の普及促進策、省エネ家電の買い替え促進策などを国や県等と連携して取り組みます
- ◎ 水道直結式ウォーターサーバーを市内の公共施設等に設置し、マイボトルの普及による使い捨てプラスチック容器の発生抑制とともに、街中での安全な飲料水の提供を行います
- ◎ フェアトレードタウンの認定を目指します
- ◎ ごみの戸別収集の実施に向けて取り組みます
- ◎ コロナで増えた家庭用ゴミ廃棄量の削減に努めるべく、法人企業と連携し、過剰包装等の削減に努めます。
- ◎ 鎌倉市地球温暖化対策地域実行計画を改定し、SDGs未来都市として気候変動の緩和、適応、影響軽減にさらに重点的・先導的に取り組みます
- ◎ 海浜の環境保全と共に、子どもからお年寄りまでが安全に楽しめる海水浴場を目指して、テクノロジーの活用による離岸流を可視化する取り組みや、溺れた人を発見したり、溺れた人に浮き輪を素早く届けたりすることができるドローンを導入します
- ◎ 神奈川県や河川流域の自治体等による広域的な連携により、海洋プラスチックごみ問題の解決に向けて取り組みます
- ◎ グリーンインフラを積極的に導入し、地域の魅力・居住環境の向上、防災・減災等に取組みます
- ◎ 街の美化を推進するためにも、市民やNPOと協働で、ごみ散乱防止、落書き防止、路上喫煙防止の取り組み、観光客も含めて古都鎌倉の美観に対する意識向上を務めます



平和・文化・芸術・歴史

- ◎ 鎌倉の歴史伝統として、禅、流鏑馬、能、茶道、鎌倉彫などの伝統的な文化に触れる機会を多く作り、鎌倉に誇りを持つことができるよう推進します
- ◎ 子どもたちも平和事業に積極的に関わられるような仕組みをつくります
- ◎ 旧長谷子ども会館(旧諸戸邸)の活用に向けて取り組みます
- ◎ 御成小学校旧講堂の活用に向けて取り組みます
- ◎ 史跡大町釈迦堂口遺跡の崩落対策工事を実施し、そして その前後の道路整備を実施して、開通を目指します
- ◎ 景観保存建築物の橋渡し制度(建築物の売却を検討する所有者と利活用を希望する方をマッチングする制度) や鎌倉市歴史的建築物の保存及び活用に関する条例を積極的に活用し、鎌倉らしいまち並みを保存します
- ◎ LGBTQ、刑務所出所者、外国籍市民など多様な市民に対する理解をより一層促進します
- ◎ 鎌倉市民憲章制定 50 周年を迎える令和 5 年 11 月 3 日、その意義や先人の想いを繋げる取り組みを行います



はたらくまち鎌倉の実現

- ◎ 鎌倉市『障害者二千人雇用事業』を、引き続き強力で推進します。
- ◎ 地域のさまざまな業種の方々に、障害者や高齢者を雇用するための理解を増やすことで、誰もが自分に合った仕事を選択する機会を最大化します。
- ◎ 障害者や高齢者の働きたい意欲を引き出せる魅力的な仕事を増やし地域での雇用を拡大します。
- ◎ 鎌倉彫の保護・育成を目的とした事業活動の支援、技術伝承を図るための支援を行ないます
- ◎ 海を未来へと受け継ぐための拠点づくり「ミツキカマクラブプロジェクト」で、「海から学ぶ・集う・獲る」といった市民のための複数の機能を担う漁業支援施設づくりに取り組みます。また、朝市など（「直売所・朝市マップ」の積極的なPR、プロモーション）を通して、『鎌倉ブランドやさい』を始め、鎌倉の農産物・水産物の販売を促進し、地産地消率を向上します
- ◎ 妊娠・出産や子育てを理由に離職・転職を選択した女性への再就職の支援を充実し、子どもを産み育てながらも誰もが働きやすい街を目指します
- ◎ 高齢者、専業主婦の再就職支援を強化します。また、母子家庭の収入アップとなる就労教育の支援を強化します
- ◎ 人生100年の時代に即し、シニアのキャリアを活かしたセカンド・ライフの充実（就労機会の創出）を支援します（生涯現役の実現と高齢者の自立した生活を実現）
- ◎ 市内企業と連携し、市内の高校・大学生のインターンシップ制度や合同会社説明会など、鎌倉の若者が鎌倉で働く環境整備に取り組みます
- ◎ 「HATSU鎌倉」（神奈川県が設置した地域とつながる起業支援拠点）とも連携して、若年（高校・大学生）からシニア層まで、市民の起業へのチャレンジを支援します
- ◎ IT関連の起業家を沢山育て、市内にベンチャー企業や研究所を誘致し、若年層の雇用を生み出します
- ◎ 起業家やフリーランスが働けるシェアオフィスやコワーキングスペースの拡充を官民連携で促進し、交流人口も増やします
- ◎ 新たな産業の誘致（深沢地域整備）、創業支援等により「働くまち鎌倉（職住近接）」の創造とともに、産学官のオープンイノベーションの環境整備に取り組みます
- ◎ withコロナ時代を踏まえ商店街の決済のタッチレス化・デジタル化に向けた整備の補助を進め、普及を実現します
- ◎ これからさらに需要が高まると予想される福祉現場で働く人財、福祉の視点で事業を起こす人財、地域の持続可能性を大切にしたい仕事や働き方を担う人財コミュニティの価値観を育て、教育と機会を増やすことで鎌倉の福祉に関わりたい人財を増やす環境整備に取り組みます。



まちづくり

- ◎ 深沢のまちづくりは、市役所・消防本部・スポーツグラウンド・総合体育館・公園を整備し、災害時に迅速かつ効果的に対応でき、また自衛隊の災害支援受け入れなど、災害時の防災拠点として整備して、鎌倉市全体の防災力向上を目指します。深沢のまちは、いるだけで心地良く、そして歩きたくなる、また、競技スポーツだけではなく、誰でも好きなスポーツを気軽に楽しめる『ウェルネス』なまちを目指します。
- ◎ 現在の市役所の跡地活用は、行政の市民サービスや相談窓口を残して近隣の利便性を維持しつつ、図書館・学習センターのホール・ギャラリー・市民活動センターなど文化・交流機能を集約し、芸術・文化・歴史の発信拠点とします。駅前の利便性の高い場所に市民が集い・学び・交流し・憩える場を整備し、鎌倉の真の中心地となることを目指します。
- ◎ 鎌倉市内の交通渋滞問題を解決するために、国土交通省と県と共に、IoTやETC2.0を活用し、駐車場情報や道路渋滞情報の可視化とAIによる予測等の情報提供を実施し、回避させると共に、ロードプライシングの実現に向けて取り組みます
- ◎ オンデマンドモビリティなどを活用して、交通不便地域を中心に、高齢者の外出支援の対策に取り組みます。
- ◎ 北鎌倉隧道(トンネル)の令和5年4月の開通に向けて、取り組みます
- ◎ 歩いて楽しいまちをつくるために、電線のない、

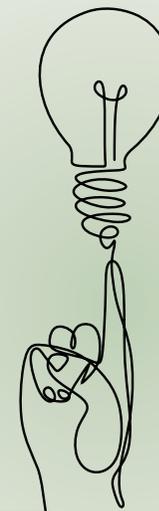
電線の目立たないまちづくり(電線地中化+裏配線化)や歩道の拡幅・フラット化を進めます

- ◎ SDGsの達成に必要な施策を推進するため、これまで築いてきた参画官民の共創関係を総動員し、2030年の目標達成を目指します(各種公民連携+リビングラボ+地域づくり会議+大学等との連携等々)
- ◎ 鎌倉市民のウェルビーイングを高められるような場づくり(例えば well-being リサーチセンター)に取り組みます。
- ◎ 行動経済学を応用し、行動変容させるナッジを、各種政策に活用します。

行財政改革・テクノロジー

- ◎ 根気強く法令順守(コンプライアンス)を徹底し、不祥事に際しては断固たる措置を講じ、原因究明をし、業務プロセス改革を実行し再発防止を務めます
- ◎ 市民参加をさらに促すためにも、情報公開し、政策形成過程に市民が参画する新たな仕組みを構築します
- ◎ 地域通貨は、目に見えない価値を可視化したり、温かい気持ちになったり、鎌倉への愛着を深めたり、人やお店とのつながりが生まれたりして、とても有効なツールではありますが、まだまだ市全体に浸透できていません。そこで、「まちのコイン・クルッポ(SDGs つながりポイント)」のポイントが公共施設の利用料などに利用できるようにするなどの取り組みを進め、さらなる普及を目指します

- ◎ ソーシャルインパクトボンド(成果報酬型サービス)実現に向けて調査研究を実施します。
- ◎ 在宅勤務などのリモートワークのさらなる推進、フレックスタイムの導入、男性社員の育児休暇取得の推進などを積極的に支援し、市役所から女性が活躍できる社会づくりに取り組みます
- ◎ 審議会等の更新時期に女性登用を促進し、令和6年度までに全ての審議会において男女いずれか一方の数が総数の10分の4以上となるようにします
- ◎ 職員が心身共に健康で、元気に生き生きと市民のために働ける市役所を実現します
- ◎ これからの時代を担う市職員が、市役所にいるだけでなく、地域の課題を自分事化して、地域に飛び出し、市民や自治町内会、NPO、大学や事業者を巻き込み、新しい価値を生み出せる人財となるよう、取り組みます。



深沢まちづくりへの想い ～市役所移転について～

市役所移転のそもそもの発端は、東日本大震災です。災害時、市役所は、市民の生命財産を守るため、十分に機能しなければなりません。

現在の市役所は大地震（震度6強以上）があったら耐震が足りず業務を継続できません。耐震化しようとする、プレースをさらに増やさねばならず、ますます執務スペースが減ります。また地下に電源があるので少しでも津波が到達し浸水すると電源が使用不能になります。

では、建て替え新築をしようとする、高さ規制（10メートル）があったり、埋蔵文化財があったりする、思うように建て替えてきません。

ですので、市民対話を通じて、まず、市役所は移転して整備するということを決めました。そして移転先は、市内の中で、深沢が適当である、という結論を出しました。

その最大の理由は、深沢の広い土地に、市役所、消防本部、スポーツランド、総合体育館（保健センター機能含む）、

公園を整備することで、災害時、迅速かつ効果的に対応できる体制が確立できること、そして自衛隊やその他の支援などの受け入れにも対応でき、災害時に深沢が防災拠点となることで、鎌倉市全体の防災力を向上できるからです。

深沢のまちは、この空間にいただけで心地良い、そして歩いても楽しい街で、スポーツも上手い人や競技だけをやるのではなく、誰でも、好きなスポーツを気軽に楽しめるそんな場にする、一人ひとりが健康になる『ウェルネス』なまちを目指します。

市役所の跡地は、行政の市民サービスや相談窓口を残して近隣の方が不便にならないようにして、その他、図書館、コンサートなどができるホール、市民活動センター機能などを導入して、芸術・文化・歴史の発信拠点としたい。そこに市民が集い、学び、交流し、憩える場となることで、真の市民の中心地となることを目指します。

費用が気になると思いますが、深沢のまちづくり

で、新駅を含む一体のまちづくりの場合の市の費用負担は約36億円。

新駅費用は、全体で150億円かかる費用のうち、鎌倉市の実質的な負担は約4億円、新しい橋をつくるのに、市の負担は約7億円。つまり合計約47億円。

一方、新駅をつくらずに、市単独で事業を行うと約48億円ですので、新駅を含む両市一体のまちづくりの方が、優位性があります。

JR、国、県、藤沢市、鎌倉市が同じ方向を向いているのはこれまでの経過からしたら奇跡的なことで、この絶好の機会を逃したら、この事業は実現できません。

これをやり切るのが私の責務です。

松尾 崇





鎌倉マニフェスト 2025

子どもから高齢者まで安心して暮らせる共生社会のまちを実現する